

# 「種山ヶ原は今③〇春」 詩「種山ヶ原」

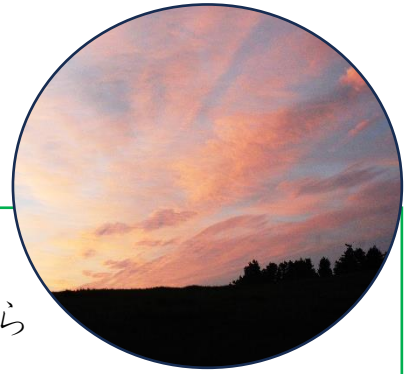
## 春の雪山から放牧、そして山野草

「種山ヶ原」 詩 宮沢賢治 作曲 ドボルザーク

春はまだきの朱雲を  
アルペン農の汗に燃し  
縄と菩提樹皮にうちよそひ  
風とひかりにちかひせり。  
四月は風のかぐはしく  
雲かげ原を超えくれば  
融けの草をわたる。

※まだきの…夜明けの薄明け時  
菩提樹…シナノ木

めぐ へきれき  
繞る八谷に 霹靂の  
いしぶみしげきおのずから  
種山ヶ原に燃ゆる火の  
なかばは雲に鎖さるゝ  
四月は風のかぐはしく  
雲かげ原を超えくれば  
雪融けの草をわたる

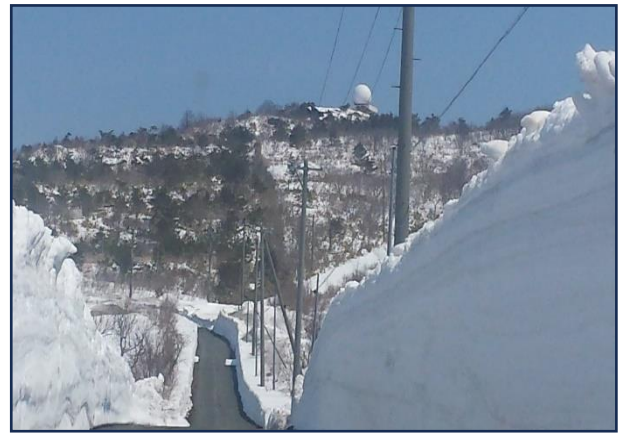


キャンプの時、歌う歌「遠き山に陽が落ちて…」(「家路」)。これはドボルザークの「新世界から」の第2楽章に W.A フィッシャーが1922年歌詞をつけ、「Going Home」と名付け、日本で戦後堀内敬三が翻訳し、歌詞をつけたものだ。しかし、宮沢賢治は1924年の夏には交響曲「新世界」に詩「種山ヶ原」をのせ、生徒に歌わせていたという。さすが賢治先生です。

賢治先生は、コロラド州の高原を想定して創ったという人もいる。種山ヶ原の麓の若者たちがこの詩を読んでか、物見山の西斜面で高原野菜作りに取り組んだことがある。暴風等で失敗はしたものの彼らの農民魂に拍手を送りたい。

今年は暖冬で雪が少ない。例年は八幡平に行かなくても雪の壁を見ることができた。写真は2, 3年前のもの。雪が少ないと水源が危機になる。種山ヶ原は人首川の源流でもあり、雪が少ないと水量が減り、農家にとって死活問題である。温暖化は人々の生活への影響大だ。





早春の種山ヶ原 大森山から種山ヶ原 「風之又三郎」も雪の洗礼？ NO！



アスファルト補修



「揚げ雲雀」が最近は見えない。何故？





道路の補修工事 早池峰山を望む



奥羽山脈に沈む夕日



## 「種山ヶ原で見られる動物たち」

動物の子供は人間に会っても逃げない。人間に興味があるのだろう。  
カモシカが増えすぎて、農家の被害は甚大。天然記念物としては増え過ぎ？  
賢治の森の東屋がカモシカの休憩所になっている。  
熊は最近会うことがないが、いるらしい。イノシシも増えてきた。恐ろしい。



## 早春の山野草

## 野草や花木を増やそう！

よく見ると、色んな花がある。どの花も色を変え、生き残りに懸命だ。蜂や蝶や虫に気づいてもらわなければならないのだ。しべを伸ばしたり、鮮やかな色の花を咲かせて虫を誘っているのだ。去年実が少ししか実らなかったヤマナシの木がある。多分花が咲いた時に霜被害にあったのだと思う。花の咲き方が悪いと虫がとま



ってくれないらしい。生物の世界は厳しいね。

虫の世界のことを言うと、虫は花を選ぶ。わが家の風船唐綿を見ていると、小さなスズメバチ？しか飛んでこない。数日経つと花が風船の形になる。驚きだった。

アズマイチゲ

アズマギク

ミヤマスマレ



ハルリンドウ



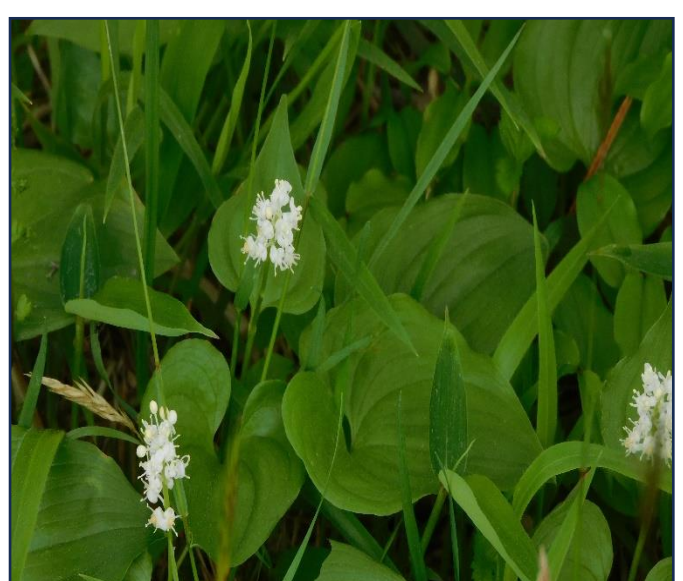
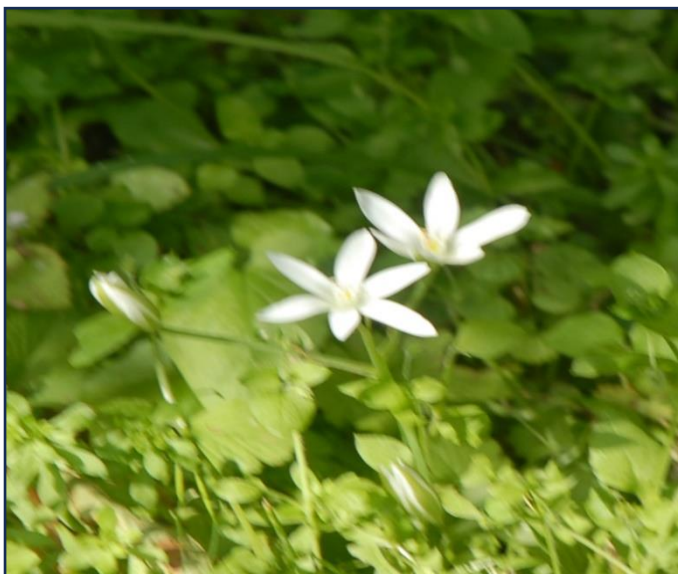
クリンソウ



オオアマナ ?



マイヅルソウ





アズマギク

<賢治の森>

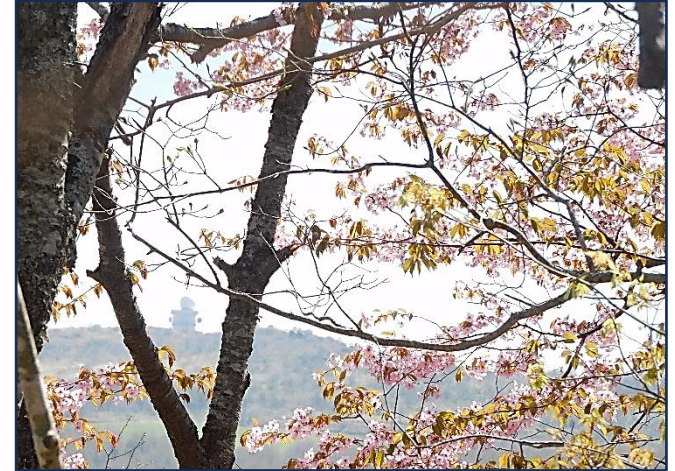
(前) やまつつじ

(後) レンゲツツジ



キャンプ場 レンゲツツジ

山桜 花が赤く、葉も一緒に



5月放牧が始まる

6か月のんびりと草を食べています いいなあ



5月草刈りが始まる 賢治の森は東菊を守るため 6回に分けて草刈りをします

